一葉さんに学ぶ
たおやかな人生

【樋口一葉を伝える 奥山塾　第一期生募集】

やまなし三女祭の会では甲府市出身の女優、脚本家 奥山眞佐子特別講師による【樋口一葉を伝える 奥山塾】を下記のとおり開催いたします。

『 樋口一葉を伝える 奥山塾 』 全三回　定員３０名

【 第一回 】　日時：2026年 7月 9日(木)　14時～15時30分
場所：山梨県立図書館 交流ルーム102
※初回ガイダンスのため、13時45分迄に御着席下さい。

【 第二回 】　日時：2026年 8月 6日(木)　14時30分～16時
場所：山梨県立図書館 交流ルーム101

【 第三回 】　日時：2026年 9月 17日(木)　14時～15時30分
場所：山梨県立図書館 交流ルーム101(102に変更の場合あり)

【 受講料 】　一般：全三回　10,000円
会員：全三回　7,000円
〈一回毎に受講の場合は、一般・会員ともに一受講 4,000円となります。〉

【 持ち物 】　メモ用品　飲み物

【 主　催 】　やまなし三女祭の会

【問合せ・申込先】　同会担当：若尾　０８０-６５０４-０２５０

【 申　込 】　やまなし三女祭の会口座に振込み(申込時口座をご案内します)
※ 事前に申込みが必要です。　※ 振込控えを必ず保管して下さい。

☑ 駐車場 １時間無料(エントランスにて機械処理)以降３０分毎に１５０円

「知っているようで知らない樋口一葉」

日本初の女性職業作家となった郷土ゆかりの一葉さんは、
19歳から小説を書き始め24歳で旅立たれました。
残された22編の小説や日記には、情緒あふれる言葉が溢れています。
小説や一葉日記を読み進めながら、たおやかな美しい日本語に出会っていただき、ご自分の言葉として身に纏っていただけましたら幸いです。

「やまなし三女祭の会」特別講師　奥山眞佐子

樋口　一葉　我が国、最初の女性職業作家

樋口一葉 名言

- 母上に安らかな生活を与え、
妹に良縁を与えることが出来るなら、
わたしは路傍にも寝ようし、
乞食にもなろう。

- みなさまが野辺をそぞろ歩いておいでの時には、蝶にでもなって、お袖のあたりに戯れまつわりましょう。

- この世ほろびざる限り我が詩はひとのいのちとなりぬべきなり。

樋口一葉 年表

年　代	出来事
明治5年 (1872)	東京府で生まれる
明治10年 (1877)	満4歳で小学校に入学するも、幼齢のために退学 その後私立吉川学校、青海学校で学ぶ
明治16年 (1883)	青海学校の高等科4級を首席で卒業
明治19年 (1886)	中島歌子の歌塾・萩の舎（東京小石川）に入門
明治21年 (1888)	家督を相続
明治22年 (1889)	小説を書き始める
明治24年 (1891)	日記「若葉かげ」を書き始める 半井桃水に師事する
明治25年 (1892)	処女作「闇桜」が『武蔵野』に掲載される 半井桃水との師弟関係を解消 野尻理作の求めにより「甲陽新報」へ「経つくえ」を寄稿 「うもれ木」が『都の花』に掲載される
明治26年 (1893)	「暁月夜」が『都の花』に掲載される 荒物・駄菓子店を営む（9か月足らずで閉店）
明治27年 (1894)	「花ごもり」、「大つごもり」が『文学界』に掲載される
明治28年 (1895)	「ゆく雲」が『太陽』に掲載される 「にごりえ」が『文芸倶楽部』に掲載される 「たけくらべ」が『文学界』に7回連載で掲載される
明治29年 (1896)	森鷗外・幸田露伴に一括掲載の「たけくらべ」が絶賛される 病状が悪化し逝去（24歳没）

講師プロフィール

・山梨県甲府市出身
・マキノ雅弘　山田五十鈴　丹阿弥谷津子　金子信雄に師事
・一葉ひとり芝居歴 29年
・山梨ことば指導　NHK朝ドラ「花子とアン」他多数
・NHK「視点・論点」出演　一葉さんへの思いを語る
・紀伊國屋ホール上演　「権利の上に眠るな」の脚本を執筆し、
市川房枝役を演じ好評を得る。同名の書籍出版へと続き、
その収益は書籍表紙絵提供の「ねむの木学園」に寄付
・一葉作品を演目とする〈三越劇場 奥山眞佐子ひとり芝居》は、本年で
連続公演16年目を迎える。2026年10月31日【一葉最後の小説】を公演予定。

● 主な受賞歴

・名古屋御園座 社長賞
・横浜 SAAC細うで繁盛記賞
・第33回 山人会前田晁文化賞

「花子とアン」より